

2016 年度版

# 環境活動レポート

対象期間：2016 年 4 月～2017 年 3 月

櫻護謨株式会社

発行番号：EA-17021

発行日：2017 年 7 月 31 日

## 1. 組織の概要

### (1) 名称及び代表者名

櫻護謨株式会社

代表取締役社長 中村 浩士

### (2) 所在地

本 社 : 〒151-8587 東京都渋谷区笹塚 1 丁目 21 番 17 号

関連事業所及び所在地

大田原製作所 : 〒324-0045 栃木県大田原市実取 799 番地 (大田原営業所含)

名古屋営業所 : 〒451-0046 名古屋市西区牛島町 5 番 21 号富士工名駅ビル

大阪営業所 : 〒530-0037 大阪市北区南森町 1 丁目 2 番 25 号南森町 isビル

福岡営業所 : 〒812-0042 福岡市博多区豊 2 丁目 2 番 26 号福岡コーポビル

仙台出張所 : 〒983-0044 仙台市宮城野区宮千代 3 丁目 5 番 13 号アサダビルビジネスビル

### (3) 環境管理責任者及び連絡担当者

環境管理責任者 : 専務取締役 中野 伍朗

連絡担当者 : 総務部 川勝 誠

TEL : 03-3466-2171 FAX : 03-3460-4910

### (4) 対象者

当社の従業員、派遣社員、パート社員及びサイト内の協力会社の従業員

### (5) 事業規模

従業員数 : 347 人

敷地面積 : 69,900 m<sup>2</sup> (対象エリア合計)

### (6) 事業活動 : 消防用ホース製造販売、消防・防災資機材の仕入れ販売

航空宇宙機器のゴム・金属部品の製造販売 (シール・ダクト・金具・  
配管・ホース)

石油備蓄タンクシール、水門水止めゴム等工業用品製造販売

### (7) 売上高 : 93 億円 (平成 28 年度 {不動産事業を除く})

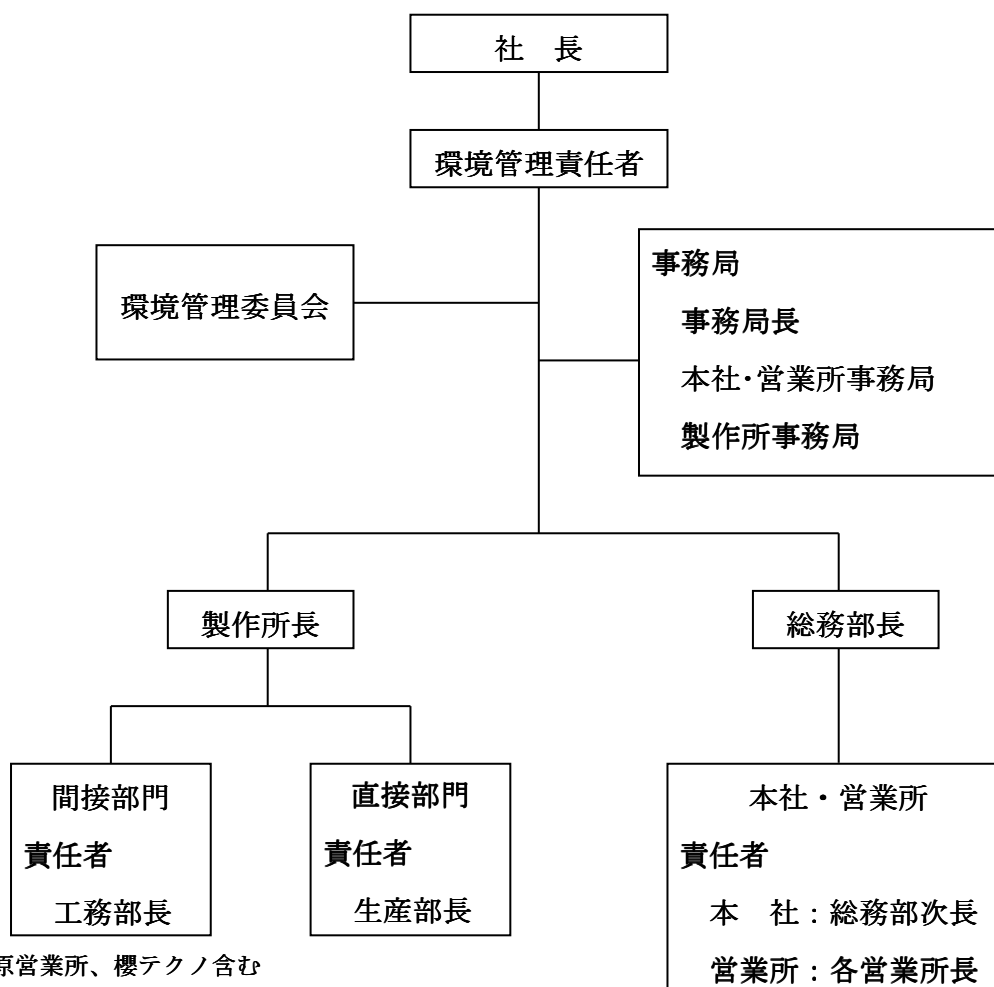
## 2. 対象範囲（認証・登録範囲）

### （1）対象組織

櫻護謨株式会社 全組織

詳細は2頁（2）所在地による。

環境マネジメントシステムの組織



大田原営業所、櫻テクノ含む

（製作所の直接部門は生産部、間接部門はそれ以外）

### （2）対象活動

当社の全ての活動を対象とする。

詳細は、2頁（6）事業活動に示す。

### 3. 環境方針

#### 環境方針

櫻護謨株式会社は、航空宇宙機器、消防機器、防災機器、一般工業ゴム製品等幅広く製造販売している会社である。

その製品は、世界の空に海に陸に活動する航空機、船舶、車輛等に装着され機能を発揮し顧客のニーズに応えている。

一方、消防ホースを始めとする消防防災機器は、各地において災害の拡大防止、人命の救助に役立っている。

当社は、企業活動と地球環境の調和を目指し、環境保全への積極的な取組を通して、豊かな社会の実現のため、以下の方針を定める。

1. 環境への負荷の少ない循環型社会実現に寄与するため、製品の開発・設計の段階から生産・物流、廃棄などの全段階における環境負荷低減に努める。
2. 環境負荷を常に認識するとともに、関連する法規・条例・協定及びその他の要求事項を遵守し、環境汚染の防止に努める。
3. 当社の環境側面の内、次の項目に重点をおいて取り組む。
  - ・省エネルギー活動（電力、燃料等の省エネ）
  - ・省資源活動（水、紙使用量の削減）
  - ・有害物質類の使用を抑制し、環境調和型の製品づくりを推進する。
  - ・廃棄物の削減と再利用化を推進する。
  - ・グリーン購入の推進。
  - ・不良品発生撲滅、歩留まり向上によるムダの削減（品質の向上）
4. 地域や社会との交流を図り、コミュニケーションを推進し、相互理解を深めると共に、環境保護活動に積極的に協力する。
5. 全社員に対して教育・啓発活動を行い、環境保全意識の高揚を図る。

平成 24 年 4 月 2 日

櫻護謨株式会社

社長 中村 浩士

## 4. 環境目標

### 環境目標

(2015 年度～2017 年度)

全社環境目標（中期 3 年）を下記の通り定める

#### 2017 年度最終目標

1. 廃棄物の削減	
・可燃物の削減（総量評価）	基準値の 3%減
・廃プラの削減（原単位評価）	基準値の 3%減
2. 水使用量の削減（総量評価）	基準値の 3%減
3. 電力使用量の削減（原単位評価）	基準値の 3%減
4. ガソリン使用量の削減	基準値の 3%減
（大田原：総量評価、本社・営業所：原単位評価）	
5. 軽油使用量の削減（総量評価）	基準値の 3%減
6. 灯油使用量の削減（総量評価）	基準値の 3%減
7. 重油使用量の削減（原単位評価）	基準値の 3%減
8. 化学物質使用量の削減（原単位評価）	基準値の 3%減
9. グリーン購入の推進	グリーン品 6 件増
10. 製品及びサービスにおける環境配慮	基準値の 3%減

\* 単年度目標：1%減目安

注記：基準値は、2012 年度と 2013 年度の平均値とする。

平成 27 年 4 月 1 日

櫻護謨株式会社

取締役社長 中村 浩士

各種削減目標（2015年度～2017年度）

		評価	基準値	目標値		
			2012, 2013 の 平均値	2015 年度	2016 年度	2017 年度
廃棄物 一般(可燃)	総量(t)		15.62	15.46	15.31	15.15
	廃プラ	原単位	0.057	0.056	0.056	0.055
水	総量(m <sup>3</sup> )		133,651	132,314	130,978	129,641
電力 大田原	原単位		1.616	1,600	1,584	1,568
	本社・営業所	原単位	15.473	15.318	15.164	15.009
ガソリン 大田原	総量(ℓ)		7,560	7,484	7,409	7,333
	本社・営業所	原単位	3.516	3.481	3.446	3.411
軽油	総量(ℓ)		2,680	2,653	2,626	2,600
灯油	総量(ℓ)		19,743	19,546	19,348	19,151
A重油	原単位		0.356	0.352	0.349	0.345
グリーン調達 大田原	品目数		—	1品目増	1品目増	1品目増
	本社	品目数	—	1品目増	1品目増	1品目増
製品・サービス(不良低減)	件数		—	1件削減	1件削減	1件削減
トルエン	原単位		0.719	0.712	0.705	0.697
HCFC-225	原単位		0.104	0.103	0.102	0.101
CO <sub>2</sub>	電力	(t)	1,263	1,250	1,238	1,225
	ガソリン		98	97	96	95
	軽油		7	7	7	7
	灯油		49	49	48	48
	A重油		1,768	1,750	1,733	1,715
	合計		3,185	3,153	3,121	3,089

削減目標 2015年度1%減、2016年度2%減、2017年度3%減

CO<sub>2</sub> 排出係数 電力 0.406kg-CO<sub>2</sub>/kWh  
ガソリン 0.0671kg-CO<sub>2</sub>/MJ 34.6MJ/ℓ  
軽油 0.0687kg-CO<sub>2</sub>/MJ 38.2MJ/ℓ  
灯油 0.0679kg-CO<sub>2</sub>/MJ 36.7MJ/ℓ  
A重油 0.0693kg-CO<sub>2</sub>/MJ 39.1MJ/ℓ

## 5. 環境活動計画

	項目	実行施策・取組手段
1	廃棄物の削減 (一般、廃プラ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏紙の再利用</li> <li>・コピー・プリントの無駄をなくす</li> <li>・不良率の低減</li> <li>・歩留まりの低減</li> </ul>
2	水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要量のみ使用の意識付け</li> <li>・水漏れの根絶</li> </ul>
3	電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光灯の間引き、LED導入</li> <li>・エアコンの使用条件励行</li> <li>・必要時以外の消灯、スイッチOFFの意識付け</li> <li>・設備の稼働集中・効率化</li> <li>・パソコン等の省エネモード設定</li> </ul>
4	ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコドライブ促進の周知</li> <li>・オドメーターの確認</li> <li>・公共交通機関の活用</li> </ul>
5	軽油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコドライブ促進の周知</li> </ul>
6	灯油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーブの使用条件励行</li> <li>・暖房効率の検討</li> </ul>
7	A重油使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイラの効率運転</li> <li>・蒸気漏れ根絶</li> <li>・更なる断熱処理</li> </ul>
8	化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗浄用途の削減</li> <li>・蒸発量の低減</li> </ul>
9	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務用品のグリーン購入品目の増加</li> </ul>
10	製品・サービスにおける 環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不良率の低減</li> <li>・簡易包装等の推進 (数値評価はしない)</li> </ul>

## 6. 環境目標の実績

項目		単位	基準値	2016年度		
			2012, 2013の 平均値	計 画	実 績	達成率(%)
廃棄物	一般(可燃)	総量(t)	15.62	15.31	14.76	104
	廃プラ	原単位	0.057	0.056	0.078	72
水		総量(m <sup>3</sup> )	133,651	130,978	130,371	100
電力	大田原	原単位	1.616	1.584	1.683	94
	本社・営業所	原単位	15.473	15.164	18.100	84
ガソリン	大田原	総量(ℓ)	7,560	7,409	7,678	96
	本社・営業所	原単位	3.516	3.446	3.638	95
軽油		総量(ℓ)	2,680	2,626	2,773	95
灯油		総量(ℓ)	19,743	19,348	18,800	103
A重油		原単位	0.356	0.349	0.316	110
グリーン調達	大田原	品目数	—	1品目増	6品目増	
	本社	品目数	—	1品目増	30品目増	
製品・サービス(不良低減)		件数	—	1件削減	2件減少	
トルエン		原単位	0.719	0.705	0.544	130
HCFC-225		原単位	0.104	0.102	0.058	176
CO <sub>2</sub>	電力	(t)	1,263	1,238	1,312	94
	ガソリン		98	96	90	107
	軽油		7	7	7	100
	灯油		49	48	47	102
	A重油		1,768	1,733	1,566	111
	合計		3,185	3,121	3,022	103

- ・ CO<sub>2</sub> 排出係数 電 力 0.406kg-CO<sub>2</sub>/kWh
- ガソリン 0.0671kg-CO<sub>2</sub>/MJ 34.6MJ/ℓ
- 軽 油 0.0687kg-CO<sub>2</sub>/MJ 38.2MJ/ℓ
- 灯 油 0.0679kg-CO<sub>2</sub>/MJ 36.7MJ/ℓ
- A 重油 0.0693kg-CO<sub>2</sub>/MJ 39.1MJ/ℓ

- ・ 達成率(%) = 計画値 ÷ 実績値



## 7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

	項目	達成率(%)	総量評価 達成率(%)	総合 評価	今後の取組
1	廃棄物の削減				裏紙の有効利用 コピー・プリントの無駄削減 不良廃棄物低減を強化
	一般(可燃)	104	—	◎	
	廃プラ	72	72	△	
2	水使用量の削減	100	—	◎	節水の意識付け
3	電力使用量の削減				省エネ活動の励行 ・エアコン使用ルールの励行
	大田原	94	94	○	
	本社・営業所	84	96	○	
4	ガソリン使用量の削減				エコドライブの周知
	大田原	96	96	○	
	本社・営業所	95	109	◎	
5	軽油使用量の削減	95	95	○	エコドライブの周知
6	灯油使用量の削減	103	—	◎	暖房使用ルールの励行
7	A重油使用量の削減	110	—	◎	ボイラの効率運転
8	グリーン調達	36品目増		◎	購入品目の増加
9	製品・サービス	2件減少		◎	不良件数の削減
10	化学物質使用量の削減				トルエン使用量削減強化 ・洗浄用途の削減
	トルエン	130	—	◎	
	HCFC-225	176	—	◎	

注記1：原単位評価で目標未達の項目は、総量でも評価し良い方を総合評価とした。

注記2：評価記号 ◎ 達成率 100%以上

○ 達成率 80%以上～100%未満

△ 達成率 50%以上～ 80%未満

× 達成率 50%未満

### 次年度の取組

昨年度から新たに設定した中期3年目標の目標達成に向けて継続して活動する。

特に今年度目標未達の項目に重点を置き取り組む。

## 8. 環境関連法規等の遵守状況

### (1) 遵守状況の確認及び評価

適用される環境関連法規等の遵守状況については、適正に行われていることを確認した。

### (2) 違反、訴訟等の有無

地域住民や関係機関等からの苦情や指摘、訴訟については、過去3年間にわたり無し。

## 9. 代表者による全体評価と見直し結果

### (1) 環境目標達成状況

原単位又は総量で評価した最終的な総合評価では、廃棄物（廃プラ）を除き90%以上という高い達成率である。

廃プラについては未達であったが、不良率の低減を強化し廃棄物の削減を図る。CO<sub>2</sub>排出量は、電力でオーバーとなったが全体では達成率103%と目標を達成できた。

継続して省エネ活動を行うことにより更なる改善を実施する。

### (2) 目標、方針等の変更の必要性

昨年度に新たに設定した中期3年目標は変更せず目標達成に向けて活動する。環境方針、環境経営システムについても変更せず継続する。

以上